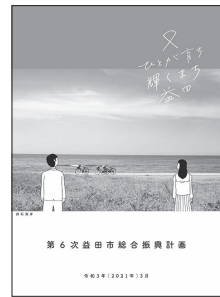


第6次益田市総合振興計画を策定しました

令和3年度から令和12年度までの10年間のまちづくりの指針となる

「第6次益田市総合振興計画」を策定しました。



<計画の構成>

第1章 基本構想

今後10年間で目指す「まちの将来像」を、『ひとが育ち 輝くまち 益田』とし、まちの将来像実現のために市民みんなで取組む17の目標「益田市版SDGs」を設定しました。

第2章 前期基本計画

総合振興計画の期間10年間のうち、前期の5年間で市が取組む施策を、分野別に記載しました。

第3章 第2期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略

地方創生や人口減少対策に関する施策をまとめたものが総合戦略です。令和7年の目標人口を設定し、その達成のために特に重点を置いて実施する施策を記載しました。

☆広報ますだ5月号とあわせて、「第6次益田市総合振興計画 概要版」を配布しています。

市ホームページにも計画書と概要版を掲載していますので、ぜひご覧ください。



市ホームページ

【問い合わせ先】 市政企画課 ☎ 31-0121

日本遺産のまち益田の歩き方

第9回 右田本店酒蔵

近年は、中世の酒造りの方法で醸造した「与三右衛門」もつくられていて、現代のお酒よりも甘口で濃厚な中世のお酒を味わえます。また、塩梅と鯉節を「与三右衛門」で煮出したものが、醤油以前の調味料である「煎り酒」です。「煎り酒」は喜阿弥町の丸新醤油醸造元でつくられていて、中世の食の再現などに使われています。

右田本店は、1602年の創業と伝わる、県内で最も古い歴史を誇る酒蔵です。

その創業については、初代の右田右京亮隆正（法名：恩誓宗味）が、伊丹で酒造技術を学び、益田で酒造業を始めたといわれます。

また、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦い後、中世益田の領主益田氏が益田を離れてしまったことで益田が寂れることを憂いた右田隆正は、2と7がつく日（2・7・12・17・22・27日）に近隣の物資と顧客を集めて「宗味市」を始めたといわれます。宗味市は昭和初期まで続き、益田の経済を支えました。

銘酒「宗味」の名は、この初代の法名からとられています。酒蔵のすぐ裏を益田川が流れていて、仕込み水にはその伏流水が使われています。

【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会
担当：市文化財課 ☎ 31-0623



右田本店のしこみ蔵

右田本店では、主に酒造期の11月から3月にかけて酒蔵の見学を受け付けています。また、試飲もできます。

歴史ある酒蔵を見学して、益田川の伏流水で仕込んだお酒や、中世の方法で醸造されたお酒を、ぜひお楽しみください。

※酒造りの作業状況により見学をお断りする場合がありますので、事前にご確認ください。

場（店舗） 本町3-30
☎ 23・0028
（酒蔵） 本町2-13
石見交通バス各路線のバス
益田本町バス停すぐ